

A-56 九州農村生活に関する研究（第3報）
福岡県南部と北部の農村主婦の生活環境と食生活の実態

東筑紫短大 宇城 カ子
○納身 節子
佐藤 順子

1. 第2報において九州農村，都市の格差を究明するため，北九州工業地帯団地とその周辺農村主婦を対象とした調査研究を公表したが，今回は，その対照的位置にある福岡県南部の農村を調査地区に選定し，県の南，北農村の格差の究明を行なうことを目的とした。

2. 1) 調査地区 福岡県浮羽郡吉井町3部落80世帯，内訳，専業農家・第1種兼業農家・第2種兼業農家をそれぞれ吉井町の比率となるよう選定した。調査地区は筑後川流域の筑後平野の中にあり，風光明眉，古代文化の発達した地域として知られ，他面五庄屋で占められ，戦後の農地改革により解放された部落で1戸当たりの耕地面積は小さい。そのほかこの農村地帯をバックとした中商工業が発達している。この対照地区としてはS39年調査実施の福岡県京都郡犀川の調査成績と比較した。すなわち北九州工業地帯隣接農村で俸給兼主婦農業で耕地面積は大きい。

2) 調査項目 A生活環境の背景及び意識調査，B食生活状況及び栄養摂取量，食糧構成の究明，C主婦の健康と生活時間。

3. 以上の調査項目について福岡県南部と北部農村の格差について結果をとりまとめたので報告する。